

# 子どもたちに誇りと逞しさを

ゼロから始まった「理想の幼稚園」づくり



## 天野優子さん

風の谷幼稚園園長

聞き手 白井美樹（ライター）

川崎市の西北端に位置する麻生区。近年、東京のベッドタウンとしての開発が進む中、まだまだ多摩丘陵の豊かな自然が残されています。そんな野山や草原に囲まれた広大な敷地に、「風の谷幼稚園」があります。光が降り注ぎ、心地よい風が通り抜け、澄み切った空気に包まれた園舎。元気のよい子どもたちの歓声に混じって、時おり鳥のさえずりも耳に届いてきます。まさに、「理想の幼稚園」を運営する園長の天野優子さんに、幼児教育にかける思いをうかがってみました。

### 〇L生活から一転、 幼児教育の仕事に没頭

—そもそも天野さんが幼児教育にたずさわるようになったきっかけは？

**天野** もともと私は、丸の内の企業に勤める〇Lだったんですよ。労働組合の活動をしていたときに、働く志はあっても、子育てと仕事の両立に挫折して、退社していく女性社員の姿を数えきれないほど目の当たりにしました。それに疑問を持った私には、「働

くお母さんを支えたい」という強い思いがふくらんできたのです。そして、28歳のときに、「そのためには、私が保育士になるしかない」と心に決めて、会社をやめました。

それからは、保育士の資格を取るために、専門学校に2年通い、いろいろな保育園や幼稚園で実習をしました。そんな中で、出会ったのが和光幼稚園（東京・世田谷）だったのです。

この幼稚園は、自然の中で実体験したり、ものを作る楽しさを教えたり、子どもを主体にしたプログラムがきち

## PROFILE

●あまの・ゆうこ●

1946年神奈川県生まれ。民間企業を経て、保育士に。その後、幼稚園教諭となり、14年間にわたり、東京・世田谷にある和光幼稚園に勤務。退職後、一時は教育現場から離れるものの、理想の教育を実践するために、1998年に学校法人立「風の谷幼稚園」を設立。著書『3歳は人生のはじまり』（ひとなる書房）。

んと組まれていました。人間として子どもをどう育てるかということに、しっかりとピントが合っていたのです。

どうしてもここで働きたいと思った私は、臨時採用期間を経て、34歳のときからこの幼稚園で働くようになりました。

—保育園ではなく、幼稚園で働くこと



広大な敷地内では野菜や果物の栽培も

にしたのですね。

**天野** 最初は、私も安易に考えていた

を尋ねてみました。すると、「幼児期から国際的な味覚を育てるため」という答えが返ってきたのです。むしろ、「人件費が安いから」と正直に言ってくれたほうが、どんなによかったでしょう。

また、あるところでは、男の子と女の子を分けて教育していました。その理由は「男は男、女は女だから」とのこと。これでは答えになっていません。一番驚いたのは、マット運動などを担任が指導するのではなく、若い体育の男の先生に任せている幼稚園でした。「若いお母さんは、若い男性の先生がいると喜ぶから」と聞かされ、開いた口がふさがらなくなりました。

多くの幼稚園を見て回って痛感したのは、今の幼児教育の現場が、決して子ども主体ではなく、大人の思い込みやご都合主義になっているということです。大人の思惑で子どもたちは振り回され、きびしい状況に置かれてい

ところがあって、「子どもを育てるとはどういうことなのか」ということを、ここで3〜4年学べば、一人前になって保育園でも生かせると思っていました。ところが、やればやるほど、幼稚園教育の深さにはまっぴりったんですね。

土日がくるのが嫌だと思うほど、ひたすら仕事に没頭するようになり、気がつけば和光幼稚園に14年も勤めていたのです。この年月は、私にとって本当に濃密で楽しい時間でした。

48歳になったときに、「もうやれることは精いっぱいやった」という達成感を得て、この幼稚園を退職することにしました。

### 子ども主体の教育ができる幼稚園の設立を決意

退職してから、今度は自分で幼稚園を設立し、園長として再び幼児教育にかかわりたいと思ったのはどうしてな

ました。

「このままだと、将来、日本を支えていく人間がいなくなってしまう」と、私は大きな憤りを感じるようになりました。ならば、幼児教育の本質を分かっている人が行動を起こすしかないと思ったわけです。そして、これまた私の性格で、「自分でやるしかないだろう」と思いに至り、子どもに責任を持つて育てていくことができる幼稚園を開設することにしたのです。

### 土地もお金も全くないゼロからのスタート

風の谷幼稚園を開設するにあたって、どんな苦勞があたりでしたか？

**天野** それはもう、たいへんなことだらけでしたよ。何しろ、土地

のでしよう。

**天野** 退職した当座は、まったく幼稚園設立なんて、考えてもいませんでした。和光幼稚園に勤めていたときに、私の父が亡くなったのですが、仕事に没頭するあまり、父の面倒を見てあげられなかったのが、今度は老人介護をやるうかと思っていました。

ところが、全力で14年間走ってきたので、燃え尽き症候群のようになってしまつて……。「このままではおかしくなるのでは」と思い、暇に飽かせて全国の保育園、老人施設、幼稚園を見て回るようになったのです。25、26カ所は行ったでしょうか。すると、見れば見るほど、多くの疑問が私の中に広がっていきましました。

ある老保一体の施設では3人くらいの外国人が給食を作っていました。乳幼児期の子どもに日本食を食べさせないのはどうだろうと思ひ、園長に理由



自作の動物園模型で遊ぶ子どもたち



もお金もない。あるのは「理想の幼稚園をつくる」という夢だけでしたから……(笑)。

折しも、その年は、オウム事件が発覚して大騒ぎになった年でした。和光幼稚園を退職するに当たって、教え子のお母さんたちが、私を励ます会を開いてくれたのですが、その席で誰かが「オウムにだって資金や資産が集まるのだから、天野先生に集まらないわけがない」と言ってくれたのです。

その言葉を聞いて、「それもそうだな」という気になりました。「1億人の日本人の中で、私の志に賛同して土地やお金を提供してくれる人が1人くらいはいるかもしれない」と思ったのです。

それからは、会う人ごとに「誰か知り合いで土地を持っている人はいない？」と聞きまわりました。そうこうするうちに、運のいいことに、ある教え子のおじさんにあたる人が、当

時で時価4億円にも相当する700坪の土地を寄付してくれることになったのです。

—すばらしい運命のめぐりあわせですね。天野さんの熱い思いが伝わったのですね。

**天野** ただし、土地は手に入ったものの、まだまだ問題は山積でした。

その土地は市街化調整区域だったので、一般の建物は建てられなかったのです。私は土地さえあれば、寺子屋のような感じでもいいと思っていたのですが、学校法人をつくらないと幼稚園を建てられなかったのです。

学校法人がどんなものかも分からなかった私は、県庁に日参して、そのつくり方を教えてもらいました。次は資

うところからお金を借りたりして、3億円にも及ぶ建設資金をつくりました。

さらに、いろんな企業家のもとを駆けずり回り、資金の提供をお願いしました。人生の中で、初めて「土下座」ということも経験しましたね。私の「本気」が伝わったのか、ポケットマネーを提供してくれる経営者もいて、最終的に資金を調達することができ、1998(平成10)年に念願かなって風の谷幼稚園を開園することができたのです。

—とはいえ、借金した分は返さないといけません。そのため、私は開園から11、12年間は、無給で働いていたんですよ(笑)。

開園したのは、私が51歳のとき。人生50年といいますが、まさに第2の人生に突入した時期です。「これからの人生は子どもたちの教育一筋でいこう」と決意しました。すでに私の二人

の息子は成人して心をわずらわせることもなかったので、50歳からのスタートっていいものだと思いますね。

—入ってきたときにすぐに思ったのですが、風の谷幼稚園は、自然と一体化した本場に気持ちいいのいい空間ですね。

**天野** ここに来られた方は、みなさんそう言ってくれますね。

幼稚園を建てる環境として私が望んでいたのは、「自然がいっぱいあること」と「老人ホームが近くにあること」でした。お年寄りとの交流は、間違いなく子どもたちによい影響があると考えていたからです。偶然にも近所に老人ホームがありましたし、山や傾斜地もありました。こんな願ったりかなったりの土地は、神様が与えてくれたとしたか考えられないほどです。

木造2階建ての園舎は、「光と風と



理想の幼稚園を語る天野さん

金集めです。

とりあえず、自分の家と夫の実家を担保に入れて、約6000万円を借金することができました。私学財団とい

ふるさと」というテーマで設計しました。傾斜地に建てられており、南からさんさんと光が降り注ぐようになっており、風の通り道も考えられています。新たに近くに4000坪強の土地も購入し、子どもたちがのびのびと活動できるように配慮しています。

### 自分に誇りを持って 生きていける子どもを育成

—風の谷幼稚園の特徴ともいえる、基本的な教育方針は、どんなところにあるのでしょうか。

**天野** 幼稚園をつくったときに思ったのは、「どんな場に行っても、人間として誇りを持って生きていってほしい」ということでした。誇りとは、自分に自信を持つということです。これをどうやったら幼児期に積み上げられるかと考えたときに、生きていく上で大事な3つのことを身につけることだ

と思いました。3つとは①生活力②コミュニケーション能力③前向きに考える力——の3つです。これを3年間の幼稚園生活で体得できるようにカリキュラムを作っています。

—具体的にどのようなカリキュラムでしょうか。

**天野** まず①の生活力ですが、衣類の着脱、食事、排せつなど、自分のことが自分でできるように指導します。年長クラスになると、その集大成として3泊4日の合宿に出かけます。帰ってきたときは、みんなひと回り大きくなっていて、見ているほうもとても頼もしく感じるほどですよ。

—その年齢だと、つい親が手伝ってしまいがちですよ。でも、自分でさせてできるようになることが、その子の自信につながるのですね。

**天野** そういうことです。

それから②のコミュニケーション能力ですが、あまりにもよく使われる言葉なので、私は「人やものと交わる力」と言い替えています。

うちの幼稚園では年長児が、入園したばかりで不安を抱えている年少児の面倒を見るのは、当たり前になっています。なぜなら、自分が入園したときに、年長のお兄さんやお姉さんが面倒を見てくれたことを覚えていて、それを今度は自分がやってあげようと思うからです。

泣いている子がいれば、「どうしてあげたらいいのだろう」と考えるようになります。これは、老人ホームのお年寄りとの交流でも同じ。具合が悪そうなお年寄りがいると、園児たちは、まるで看護師のように接します。そういう心の動きを持つことで、人と交わるときにやさしさも養っていきます。

③の前向きに考える力は、問題を解

決できる能力といってもいいでしょう。

たとえば、うちのカリキュラムでは、3歳のときから木工をやります。なぜ木を使うのか。木片なら釘で打ち付けても、思うようにいかなかったら釘を抜けばいいわけで、何度でもやり直しが利くからです。だから、園児たちは決して「失敗」という言葉は使いません。

失敗という言葉は、自己否定につながります。しかし、「うまくいかなかった」という言葉であれば、やり直すという意識につながり、こうすればいいという解決法を模索できるようになるのです。

—そういえば、どの教室をのぞいても、幼稚園児としてはユニークで創造性豊かな作品があふれていますね。

**天野** ここでは工作の時間に、のこぎ

りやはさみ、きり、金づちなど、本物の道具を使うようにしています。5歳児になると月1回の割合で調理活動をしています。そのときはよく切れる大人の包丁も持たせます。道具の正しい使い方、管理の仕方を教えれば、何も危険なことはありません。

本物といえば、二期期に入ると総合活動として動物を扱います。子どもにとって、ゾウやキリンは大きい動物と知っていてもその大きさを実感しているわけではありません。それを可能な限り体感できるようにするため、実物大のゾウやキリンの絵をみんなで描いて教室に貼ります。

動物の大きさを感じ取るという活動を年少組でした後、年長組では、みんなで動物園の模型を作ったりもします。

幼稚園の庭では、羊を1頭飼っているんですよ。エサを与えたり小屋の掃除をしたりするのも子どもたちです。



実物大の動物を描いて正しい認識を持たせる



そして羊の毛が伸びると、毛を刈って、染色して、糸に紡いで、ポシェットを作るなどの作業も行っています。

### 「親も一緒に」も基本方針の一つ

「タケノコ掘り、栗拾い、サクランボ狩り、芋掘りなど、毎月さまざまな行事があるのですが、先生方の準備もたいへんなのでは？」

**天野** そうした催しは、うちの幼稚園では行事ではなく、日常のことと考えています。準備もお母さんが、率先してやってくれるので、何もたいへんなことはありませんよ。

風の谷幼稚園の基本方針の一つに「親も一緒に」ということがあります。親も参加する場面がいろいろあり、幼稚園の教育を支える重要な柱の一本になっています。

「夏の集い」では、お母さんたちが

夏ならではの遊びを教えてください、土曜日にはお父さんたちが、下駄箱などの修理を率先してやってくれたりしています。園の役員活動やサークル活動もたいへん盛んで、まるで一つのファミリーのような雰囲気です。親子で、風の谷幼稚園の生活を楽しんでいくといった感じがありますね。

### いつまでも卒園児の心のふるさと

「自然豊かな恵まれた環境の中で、子どもたちは、生きるのに必要なことを楽しく学び、のびのびと逞しく育っていくのでしょね。とはいえ、幼稚園の恵まれた環境から巣立って、一般の小学校に入ったとき、とまどう子どもはいないのでしょうか。」

**天野** 新しい環境では、みんな1、2カ月はカルチャーショックを受けて、とまどっているようですよ。でも、元

なんて言われ、園生活の中では聞いたことのない言葉なので、落ち込んで親と一緒に私のところに相談しにくる子どももいます。そういうときには、「いろんな人がいるんだよ」「どうしてそういうこと言ったのか考えてごらん」などと論じます。社会に出ればいろいろなことがあるので、「とまどう」ということも大事なことからです。

ほとんどの卒園児たちは、自分のことは何でもできて、相手を受け入れようとする力が育っているのです、スナナリと新しい環境に溶け込める子が多いですね。

やはり、卒園してからも、風の谷幼稚園は、子どもたちの心のふるさとになっているんでしょうね。

**天野** そうですね。スポーツの大会で活躍したり、大学に受かったり、あるいは受験に失敗したりなど、なにかに

つけて幼稚園に報告しにやってきました。運動会やお正月の遊びの会などにも、たくさん卒園児が集まってきました。

幼児期は本当に重要な時期です。この時期に自分の好きな道がみつかったり、そこから発展したりすることもあります。そういえば、うちの幼稚園で育った子どもは、文章の上手な子どもが多いですね。自然の中で育つと、きっとみんな詩人になるでしょう。例えば、隣地には梅の木が植わっているのですが、ある子どもは「梅の香りをおかずにご飯を食べる」など、さらっと言います。また、2月に入るとカルタ作りをするのですが、卒園が近いことを感じているのか、「桃の花、咲いたらみんなとさようなら」と詠んだ子もいて、これを聞いたときには涙が出てきたものです。

ある女の子は「やればできる、と思えばできる」という句を作ったのです

来仲間づくりが上手なので、不登校になるような子どもはいませんね。

時には、同級生から「バカ、死ぬ」



風が通り抜ける園舎内。舞台では落語会などさまざまな催しも

が、これには感心するばかりでした。まさに風の谷の精神です。

### 卒園児が教師として戻ってくるのが夢

「天野さんの考えていた、子どもの心を養う理想的な幼稚園教育が、着実に実を結んでいるようですね。その上立って、今後、こうしたいという夢がありますか。」

**天野** そうですね。「自分の子どもができたなら、絶対に風の谷幼稚園に入れる」なんて言ってくれる子どもも多いのですが、卒園児の中で先生として戻ってくる子がいてくれたらうれしいですね。幼稚園を設立して16年がたつので、最初の3歳児入園の卒園児は、現在大学1年生になっています。もう数年したら、たぶんそういう子も出てくるのではないかと期待しています。